

フォーラムニュース

特定非営利活動法人奈良21世紀フォーラム 会報

2015年夏号 No27

I. 平成27年度通常総会開催される

◎活動実施方針、事業計画を決定

活動実施方針

【奈良県の歴史文化とそれを取り巻く自然環境の魅力を再発見し、奈良県の活性化に結びつく提案活動を行う。】

【奈良県の観光立県としての持続的な観光振興のための取り組みに積極的に協力する。】

【奈良県内に根を下ろし、発展し続ける企業の伝統、文化、経営理念と奈良の風土とのかかわりを調査、記録し、県内で活躍する企業を県内外に紹介する。】



平成27年度の事業計画

- ① 「万葉蹴鞠」の復元
- ② 「書の文化」の伝承
- ③ 「奈良の歴史文化資源」の探訪
- ④ 「奈良県企業の企業文化、企業風土」の調査、紹介
- ⑤ 「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援



挨拶される堀井理事長

通常総会

平成27年度の通常総会を、6月27日(土)奈良ロイヤルホテルにおいて開催しました。

総会では、平成26年年度の事業報告と決算の承認、平成27年度の活動実施方針、事業計画および予算を決定しました。また、本年度は役員改選の年にあたり、重任を辞退された増尾正子氏を除く理事28名並びに監事2名の方々が就任されました。

同日開催された理事会において、理事長には、堀井良殷氏、副理事長に中村憲児氏、専務理事に江並一嘉氏がまた、特別顧問には、森本公誠氏ならびに山口昌紀氏が選任され、それぞれ引き続き就任されました。(役員名簿は12ページ)

その他、活動の実態に併せて、定款の一部変更を決定致しました。

活動実施方針は前記のとおりですが、事業計画は、フォーラム発足時からの事業

である「万葉けまり」の復元、「書の文化」の伝承、「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援の3事業を継続するほか、「奈良の歴史文化資源」の探訪については、日本人の心の原点を探る活動として奈良県内の神社、仏閣を初めとする文化資源を顕彰し、新たな視点で紹介するとともに、食文化を発掘し、観光資源として地域活性化に結びつける提案活動を行ってまいります。このほか「奈良県企業の企業文化、企業風土」の調査、紹介については、奈良の風土に生まれ成長するユニークな企業を対象に記録、調査し経営トップの取材を通じて冊子をシリーズ化し「奈良に息づく風土産業 企業人列伝」として製作、刊行します。また、取材企業で製造・製作・展示等の現場や様々な形で社会貢献に励む企業のリアルな姿に触れる機会として企業見学会を実施してまいります。これら2事業と合せて5事業を行うことを決定しました。

総会終了後、春日大社宮司 花山院 弘匡氏から「第60次式年造替」と題して記念講演をしていただきました。



総会の様子



理事会の様子

冒頭春日大社と花山院家との関係に触れられた後、春日大社は藤原氏の氏神と言われるが、伊勢神宮と同じく国家鎮護の神社で、神護景雲 2(768)年に春日大社が創建された際に平城京、国家を鎮護する社として位置づけされていた。また、興福寺との関係や宮中との関わり、3月27日の夜に外遷宮（神様をご本殿から仮御殿にお遷りになる）が斎行された時の状況など大変貴重なお話をいただきました。



講演される花山院宮司

Ⅱ. 平成27年1月以降に実施した事業

1. 「万葉蹴鞠」の復元

(1) 宇和島伊達400年祭への参加

実施日 平成27年5月4日（月）

参加者 11名

宇和島市では、宇和島伊達藩が開かれて今年が400年目の節目に当たり、これを記念して「宇和島伊達400年祭」が執り行われ、様々な記念イベントが催されました。この一環として5月4日のゴールデンウィーク中に開催された宇和島お城まつりに当フォーラムも参加し、宇和島城天守前広場において、万葉蹴鞠を披露いたしました。当日は晴天に恵まれ、会場は多数の見学客で賑わい、大きな歓声に包まれました。



(2)春日大社第60次式年造替奉納蹴鞠の実施

祝御造替奉納蹴鞠行事・万葉蹴鞠の宴 in 飛火野

～新たなる奈良県観光資源に～

実施日 平成27年5月31日(日)

参加者 30名

5月31日に春日大社第60次式年造替の奉祝行事として、日本の歴史を支えた藤原氏の神を祀る同大社において氏祖のゆかりある万葉蹴鞠の奉納並びに、境内の飛火野で蹴鞠の披露、蹴鞠体験等の催しを行いました。

出演者は社務所で衣裳を整え、拝殿に拝礼、蹴鞠奉納後、雅楽を先頭に、中大兄皇子、藤原鎌足、女官、審判、鞠足の順で飛火野会場に向かいました。

飛火野会場では、主催者並びに来賓の挨拶の後、多くの見学者や観光客などに見守られる中、熱戦が繰り広げられました。

今後、奉納蹴鞠は、平成27年・28年の春、秋の4回奉祝行事として実施した後、29年以降は春日大社蹴鞠祭として奉納する予定です。



林檎の庭で正式参拝



飯島正人さんによる蹴鞠の奉納



飛火野会場へ向かう



天理大学雅楽部の皆さん



主催者挨拶をされる
堀井理事長



来賓挨拶をされる
前田 努氏
(奈良県副知事)



新調された蹴鞠観覧者用衣裳

中大兄皇子用(中央右)

藤原鎌足用(中央左)

女官用(左右両端)

監修 猪熊 兼勝・当フォーラム理事

(京都橘大学 名誉教授)

制作 株式会社 近鉄百貨店

熱戦が繰り広げられる飛火野会場



雨風去りて、三笠の山の飛火野にて、友公達と春日の神に奉る蹴鞠に際し二首を奉る

緑さす 三笠の山に こだまする 鞠打つ声は 神への祝詞

飛火野は 春日の社の ひもろぎの 緑野響く 鞠打つ音ぞ

詠人 ペンネーム 紀朝臣蹴麻呂 (鞠足 打田雅彦)

2. 「奈良の歴史文化資源」の探訪

奥田の蓮を追いかけて

～「奥田の蓮取り行事」と「蔵王堂の蛙飛び行事」～

実施日 平成 27 年 7 月 7 日（火）

参加者 22 名

仏教では、智慧や慈悲の象徴とされているハス。『万葉集』では「ハチス」の名で詠まれている。ハスの呼び名は花托（花の中央の平らな部分）が蜂の巣に似ているところから、この部分を仏の台座に見たてたり、ハスは仏が持つ花であったりと、仏教との関わりが深い。

今回はこのハスに関わる二つの行事を見学した。一つは午前中に行われる大和高田市奥田の「蓮取り行事」と、もう一つは午後から行われる吉野山金峯山寺蔵王堂の「蓮華会」と「蛙飛び行事」。これらは一連の行事であるとともに、役行者の母・刀良売にまつわる「一つ目蛙」の伝承に深くかかわりを持っている。

二つの行事がある 7 月 7 日は、まだ梅雨の最中である。イヤな予感的中してしまい、朝から案の定雨になったが、午前 10 時、捨篠池の「蓮取り行事」は古式にのっとり、法螺の音を合図に進行。読経の中、村人らが乗り込んだ舟は静かに池畔を漕ぎ出し、群れをなして咲くハスの中に見え隠れしながら蕾を刈り取っていった。この頃、雨は一段と激しさを増し、見物客の傘の花に叩きつける雨音で、読経もかき消されてしまうほどだった。



降りしきる雨の中蓮取りが行われる

摘み取ったハスは、この日に吉野町の金峯山寺で行われる「蓮華会」に供えられる。

法要が終ると、我々一行は、修験者の行列に先立ち、役行者の誕生所であり、母の住地と伝わる福田寺（行者堂）で、珍しい役行者の母の寝像を拝観する。唇を赤く染めた小さな像はあたかも釈迦の涅槃の様相。続いて田園風景の広がる一角にある刀良売の墓前にお参りをした。

一方、整列した修験者（行者）らは法螺の音を響かせながら、周辺の役行者ゆかりの地をめぐり、刀良売の墓前にハスの花を献じて供養した。このあと池前にある弁天神社で、参拝者の「心願成就」を祈る護摩供が行われた。が、我々はそれを横目に、一路、吉野山へと向かった。

心配はやはり雨のことだったが、目的地に近づくにつれ、曇空に変わり、午前に降



「さこや」にて中田講師の話を聴く



供える蓮華会の一環として行われる。

献花の法要が一段落すると、大きな蛙が蔵王堂前にしつらえられた渡り廊下をうつむき加減に行ったり来たり。仏教をけなしカエルの姿になった男は、受戒法師の前でかしこまり、自ら蔵王権現の前に懺悔、法力によって元の人間の姿に戻るといったものだが、このコミカルな法要は吉野山に伝わる「カエルの物語」の最後の部分を実演したもの。カエルに扮した男性が被りものを脱ぎ、人間の姿に戻った場面では観客から大きな拍手がおこった。上空には青空も見え、朝の悪天候がウソのように日が差し、

った雨が、すべてを洗い流したせいか、バスの車窓から見る山や田んぼの緑がいつもにも増して美しく感じた。

一時間足らずで吉野山駐車場に到着。まずは、金峯山寺仁王門の門前町にある老舗旅館「さこや」の大広間で、遅目の昼食を摂った。奈良の食材を使った美味しい料理に舌鼓を打つ。食事後、講師より行事のことや、役行者の出自や幼少年時代、出家などについての説明があった。この頃既に、大和高田市奥田から 108 本のハスを入れた花桶を運んで来た修験者ら一行と、出迎えた吉野側の行列や御鳳輦とが、ロープウェイ吉野山駅前で合流。本来ならば、大蛙を乗せた太鼓台と子供輿（子蛙）もこの場に居合わせるはずが、朝の降雨の時点で、この二つの出場は取りやめとなった。残念ながら、初めて見物の方々には、太鼓台の威勢のよい掛け声や、見せ場の一つである金峯山寺の急な石段を駆け上がる様子、そして境内を練る太鼓台の勇壮な姿は想像してもらう結果となった。

午後 3 時頃、壮麗な大行列が門前町を上がってくるが、この頃には雨もほぼ上がり、我々一行は仁王門の下で見物。行列が途切れるのを見計らって、すぐに蛙飛び行事の舞台となる蔵王堂前に移動。既に人垣を作っていたが、それぞれに見やすい場所を探し、行事の始まりを待った。蛙飛び行事は、蓮の花を蔵王権現に

時折り爽やかな風が吹き抜けるなかの進行だった。

我々一行は、ここまでの見物で、午後五時頃吉野山をあとにした。

だが、一連の行事はまだ続いていて、このあと大護摩供があり、翌早朝より、修験者らによって、数箇所、祠にハスを献花しながら、最終的に大峰山上の修験本尊「蔵王権現」に供えられ、一連の行事が終了となる。

今回の一連の行事に、ハスの花はなくてはならないもの。

泥中に咲きながら、その汚泥に染まらず清らかに香気を放つハスを美しく咲かせるには、行事を支えてきた奥田の人々の並々ならぬ努力があった。

「ハスの実は栄養価が高く、亀やザリガニが寄り付き、その駆除や雑草取りなどが大変」と、蓮取り行事の導師の大役を務めた、行者堂の大井良證住職の言葉を思い出した。こうした関係者の、我が子を育てるように愛情をかけた手入れがあつてこそ、行事を成功に導くことを、私たちは忘れてはならない。

(N.N 記)



蛙飛び行事で賑わう蔵王堂境内

3. 奈良県企業の企業文化、企業風土の調査、紹介

◇企業見学会

(1) 「(株)柿の葉すし本舗たなか」 会社見学会を開催

実施日 平成27年3月6日(金)

参加者 33名

3月に入っても寒さが解けない6日(金) 11時10分到着の近鉄「福神駅」利用組はNPO法人「うちの館」の赤バスで、また自家用車利用組は直接参加者33名が五條市住川町の(株)柿の葉すし本舗たなか本社にそれぞれ集合、田中郁子社長のお出迎えを受けました。

本社は、工場と一体で平成5年に建設されたもので「テクノパーク・なら工業団地」の一角にあり、1日最大10万個の柿の葉すしを製造できる能力をもつそうです。

2階の多目的ホールに着席、江並専務理事の挨拶のあと、田中社長の歓迎のご挨拶をうけ、引き続き会社・工場の紹介ビデオを拝見しました。

ビデオで、自然に恵まれた奈良五條の紹介と、この風土で生まれた郷土食「柿の葉すし」の本来の手作りの過程の解説があつたあと工場の生産工程を分かりやすく見せ



挨拶される田中郁子社長



ていただきました。この工場は、深夜に作業を開始し朝終了します。それは生ものでもあるすしの鮮度を大切にするからです。またおいしいすしを届けるため手作りの技術をオートメ化の中に織り込んで製造ラインが設計され、同社オリジナルの機器が配置されています。すしネタをのせる工程が女性従業員の手で行われ、大きな木箱に一定数ごとに詰合せていることから、本来の手作りの

思想が徹底されていることが分かりました。

中路工場長から工場の概要をお聞きしたあと、3階に上がり専用通路から工場内部を見学しました。当日の作業は既に終了していますので中は稼働していませんがシーンとして整然とした内部の様子は、逆に深夜の作業を彷彿とさせてくれます。

工場見学を終え、NPO法人「うちのの館」が管理・運営する「藤岡家住宅」に移動しました。この住宅は、戦前の官僚であり俳人であった藤岡玉骨の生家で、所有者で当主の藤岡宇太郎氏が修復したものを、「(株)柿の葉すし本舗たなか」初代社長田中修司氏が理事長を務める同NPO法人に管理・運営委託されたもので現在登録有形文化財になっています。五條のまち起こしに尽力されてきた修司氏のご努力で単なる保存に留まらず学芸員を置き定期的な企画展や俳句の会、音楽会、食事会などを開催し文化的活用がはかられているという全国的にも稀有な存在といわれています。



藤岡家住宅を見学

庭の樹齢300年の「長兵衛梅」は未だ蕾の状態でしたが、座敷に飾られたひな人形、盆梅が優しく我々



挨拶される田中修司理事長

を迎えてくれました。川村館長のご説明をお聞きしながら館の内部を見学、とくに最近発見された南方熊楠の書簡類は藤岡家と日本有数の文化人との交流の姿を浮き彫りにしています。屋根裏の物置には当主も知らない物品が残っており今後の調査の進展が楽しみです。

昼食後田中理事長のご挨拶をいただき、最近NPO法人から発刊された「登録有形文化財藤岡家住宅修復と活用の記録」が参加者全員に贈呈されました。

藤岡家住宅をあとにして、「近鉄ふぁーむ花吉野」に向かいました。この農園は、近畿日本鉄道(株)の直営施設で花吉野の開発用地を有効活用するため平成24年に設置され、完全人工光型植物工場と農業用ハウスから構成されています。

担当の吉川課長のご案内で、ミニトマトのハウスとレタスの工場を見学しました。植物工場は、蛍光灯を光源とし有機人工土壌を使用して6段の棚でレタスを栽培、一方のハウスは5棟からなり、フィルム農法を採用し植物に水分ストレスをかけることにより糖度の高いミニトマトを生産しています。一粒、手でもいで口にするとトマトとは思えない甘さ、お聞きすれば糖度は10度になるとのことで納得しました。この農園からは主に近鉄系の百貨店、スーパー、ホテル、レストランに出荷されているとのことでした。



近鉄ふぁーむ花吉野で、参加者全員にトマトとレタスをお持ち帰りいただき五條の風土と歴史を堪能した見学会を終了しました。(T. H記)

◇奈良の風土産業 企業人列伝発行状況(平成27年1月～8月)

第9号 (株)柿の葉すし本舗たなか 社長 田中 郁子

(平成27年4月27日発行)

※在庫が少々あります。希望者にお分けいたします。

4. 「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援

土工房轆轤^{ろくろ}の会員作品展、チャリティーに協力

(公財)吉野川紀の川源流物語から感謝状が贈呈される

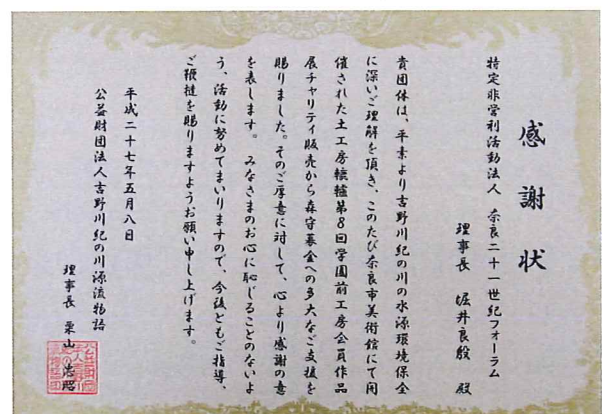
平成27年4月15日から19日の5日間、奈良市二条大路の奈良市美術館で開催された「土工房轆轤」の作品展と会員作品のチャリティーに協力致しました。

チャリティーの収益金は全額「森と水の源流館」に寄付されました。

これらの協力に対して(公財)吉野川紀の川源流物語から当フォーラムに対して、感謝状が贈られました。

今後も、様々な機会を通じて「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援を続けてまいります。

なお、今回の企画は「土工房轆轤」の



会員で、当フォーラム理事の大辻康夫氏の提案によるもので、「土工房轆轤」を主催する陶芸家古野幸治氏(当フォーラム会員)ならびに趣旨に賛同された轆轤の学園前工房室の会員皆さんの協力によって実現したものです。



Ⅲ. 今後の予定

- | | |
|-----------|---|
| 9月28日(月) | 第一化工(株)会社見学会 |
| 10月17日(土) | 第6回大仏書道大会 |
| ～18日(日) | 作品展示(17日～18日、大仏殿西回廊)
席書会(18日 大仏殿西回廊) |
| 10月25日(日) | 奈良の歴史文化資源の探訪
～御杖村「四社神社秋祭り」見学
と伊勢本街道宿場町ぶら歩き～ |
| 11月 3日(祝) | 「源流まつり」in わかやま しらすまつり(参加予定) |
| 11月15日(日) | 春日大社第60次式年造替奉納蹴鞠(春日大社、飛火野)
万葉蹴鞠の奉納
来場者蹴鞠体験の実施 |

理事会構成

理事長	堀井 良殷	公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会理事長
副理事長	中村 憲兒	奈良交通(株) 取締役会長
専務理事	江並 一嘉	元(株)近鉄百貨店 副社長
特別顧問・理事	森本 公誠	東大寺長老
特別顧問・理事	山口 昌紀	近鉄グループホールディングス(株) 取締役相談役
理 事	足立 伸之助	近鉄ケーブルネットワーク(株) 相談役
理 事	安細 恭弘	マルチメディアコンサルタント
理 事	飯田 圭兒	(株)近鉄百貨店 相談役
理 事	猪熊 兼勝	京都橘大学 名誉教授
理 事	上野 誠	奈良大学 教授
理 事	卜部 能尚	ウラベ木材工業 代表
理 事	扇谷 泰之	(株)シードコンサルタント 取締役会長
理 事	大辻 康夫	奈良町情報館 特別顧問
理 事	岡橋 清元	清光林業(株) 取締役会長
理 事	岡村 元嗣	岡村印刷工業(株) 取締役社長
理 事	榎木 康雄	(株)日昂食品 代表取締役
理 事	菊池 攻	奈良トヨタ自動車(株) 取締役社長
理 事	久保 昌城	竹茗堂 代表
理 事	小山 新造	小山(株) 取締役社長
理 事	近東 宏佳	共同精版印刷(株) 取締役社長
理 事	豊澤 安男	奈良豊澤酒造(株) 取締役社長
理 事	中井 隆男	大和ガス(株) 取締役社長
理 事	中畠 實男	奈良中央信用金庫 相談役
理 事	西口 廣宗	(株)南都銀行 取締役相談役
理 事	森下 泰行	元近畿日本鉄道(株) 副社長
理 事	森本 俊一	三和澱粉工業(株) 取締役会長
理 事	山本 太治	(株)三輪そうめん山本 取締役社長
理 事	吉川 勝久	KNT-CTホールディングス(株) 取締役会長
監 事	中畠 大	中畠大会計事務所 所長
監 事	福嶋 重博	奈良県サッカー協会 名誉会長

(50音順 平成27年6月27日現在)

2015年8月発行
 編集 足立伸之助、中村優造
 発行 NPO法人 奈良二十一世紀フォーラム
 〒630-8244 奈良市三条町 511-3 奈良交通第2ビル